

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育・教職実践演習(幼稚園)		
担当者	桐原 美恵子、川村 高弘		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割について、自分なりの考えを言葉や文章で表現することができる。</p> <p>②使命感や責任感、社会性や対人関係能力など、保育者として必要な資質について学び、周りの人とコミュニケーションをがとれるようになる。</p> <p>③目指す保育者像に向けて、自己課題を明確にするとともに、保育者としての意識を高めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、幼児期の生活や遊び、保育者の役割等について指導します。</p> <p>②幼稚園実習や幼稚園参観など実地での経験をもとに、そこでの気づきやつまづき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。</p> <p>③外部講師や様々な教員の講話により、保育者としての自覚をもつとともに幅広い保育の在り方を習得します。</p> <p>④幼児の興味・関心を捉え、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保護者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼稚園に出かけたりして実際の学びを深めていくために、事前にその授業のねらいや自己の課題を明確にしてください。 ・保育に関するニュースや出来事について見聞を広め、「履修カルテ」に記録してください。 ・指示されたレポートや課題は、確実に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度)。 <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション、履修カルテを用いて自己評価とこれまでの履修や活動の振り返り・自己課題についてグループ討論(桐原) 2. 社会性を育てる表現あそび(川村) 3. 創造性を育てる表現あそび(川村) 4. 幼稚園現場での保育(保育参観)(桐原・川村) 5. 保育参観および動画による振り返りとグループ課題についての学び(桐原) 6. 現職教員から学ぶ:幼稚園運営と幼小連携等について講話(学外特別講師・桐原・大西・川村) 7. 感覚や気づきを育てる表現あそびの実践(川村) 8. グループによる事例研究①:遊びを創る保育の実践(桐原) 9. 自然環境について講義(学外特別講師・桐原・大西・川村) 10. 教育実習のフィードバック、グループによる事例研究②:幼児が楽しむ遊びの指導案の作成(桐原) 11. グループによる事例研究③:模擬保育とグループ相互の評価、レポート・履修カルテ作成(桐原) 12. 震災・命について講義(学外特別講師・桐原・大西・川村) 13. グループ課題のまとめ、自己課題確認と評価(桐原) <p>[成績評価方法]</p> <p>実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、授業態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートや履修カルテは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (川村) tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp (桐原) mkirihara @kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育・教職実践演習(幼稚園)
担当者	桐原 美恵子、川村 高弘
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 実技指導の達成状況、レポート</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 履修カルテ、授業態度</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省編 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	

授業科目名 (サブタイトル(副題))	保育・教職実践演習(幼稚園)		
担当者	大西 眞弓		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	○
プレゼンテーション	○	実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①実習で学んだ子どもへの理解や援助、施設の機能とそこでの保育者の役割について、自分なりの考えを言葉や文章で表現することができる。</p> <p>②使命感や責任感、社会性や対人関係能力など、保育者として必要な資質について学び、周りの人とコミュニケーションがとれるようになる。</p> <p>③目指す保育者像に向けて、自己課題を明確にするとともに、保育者としての意識を高めることができる。</p> <p>[授業概要]</p> <p>①幼稚園現場での教員経験のある者が、その経験を活かして、幼児期の生活や遊び、保育者の役割等について指導します。</p> <p>②幼稚園実習や幼稚園参観など実地での経験をもとに、そこでの気づきやつまずき、疑問や悩み等を整理し、自己の修得すべき課題を明確にしていきます。</p> <p>③外部講師や様々な教員の講話により、保育者としての自覚をもつとともに幅広い保育の在り方を習得します。</p> <p>④幼児の興味・関心を捉え、そこから出発した遊びへの導き、幼児への言葉かけ、保育者への対応等、必要な学びを深めていきます。また、模擬保育等により保育の実践力を修得していきます。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育の現場にいる外部講師から学んだり、実際に幼稚園に出かけたりして実際の学びを深めていくために、事前にその授業のねらいや自己の課題を明確にしてください。 ・保育に関するニュースや出来事について見聞を広め、「履修カルテ」に記録してください。 ・指示されたレポートや課題は、確実に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて1時間程度) <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、履修カルテを用いて自己評価とこれまでの履修や活動の振り返り・自己課題についてグループ討論(大西) 2. 社会性を育てる表現遊び(川村) 3. 創造性を育てる表現遊び(川村) 4. 幼稚園現場での保育(保育参観)(大西) 5. 保育参観の振り返りとグループ課題についての学び(大西) 6. 現職教員から学ぶ:幼稚園運営と幼小連携等について講話(学外特別講師・桐原・川村・大西) 7. 感覚や気づきを育てる表現遊びの実践(川村) 8. グループによる事例研究① 保育室の環境構成を考える(大西) 9. 自然環境について講義(学外特別講師・桐原・川村・大西) 10. グループによる事例研究② 学びの軌跡ドキュメンテーションの作成(情報機器の活用を含む)(大西) 11. グループによる事例研究③ 学びの軌跡ドキュメンテーションの発表と評価(大西) 12. 震災・命について講義(学外特別講師・桐原・川村・大西) 13. グループ課題のまとめ、自己課題確認と評価(大西) <p>[成績評価方法]</p> <p>実技指導の達成状況(40%)、レポート・履修カルテ(40%)、受講態度(20%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>レポートや履修カルテは添削して返却します。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>(大西) yohnishi@kwjc.kobe-wu.ac.jp (川村) tkawamura@kwjc.kobe-wu.ac.jp (桐原) mkirihara@kwjc.kobe-wu.ac.jp</p> <p>質問等がある場合は、メール本文に学科名・学籍番号・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>			

授業科目名 (副題)	保育・教職実践演習(幼稚園)
担当者	大西 眞弓
<p>[この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)]</p> <p>【幼教1-2】子どもの年齢や発達過程を理解し、総合的な心身の発育を促すための知識・技能を有している。 成績評価方法: 実技指導の達成状況、レポート</p> <p>【幼教2-3】保育者として、また社会の一員としての自覚に基づいた創造的能力を備えている。 成績評価方法: 履修カルテ、授業態度</p> <p>【幼教3-3】幼児教育・保育に関して、生涯にわたり学び続ける姿勢を有している。 成績評価方法: 履修カルテ</p> <p>[テキスト(ISBN)] 必要に応じてプリントを配布します。</p> <p>[参考文献(ISBN)] 厚生労働省編 著者名: フレーベル館 出版社: 978-4-577-81448-2 (『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』) フレーベル館 著者名: 978-4-577-81449-9</p>	